

ScreenBeam® | wireless display

# ScreenBeam 1100

## ワイヤレスディスプレイ受信機

ユーザーマニュアル  
(基本編)

V1.0

対象カタログ番号: SBWD1100

# 目次

パートI	はじめに .....	1
1.1	製品パッケージの内容 .....	1
1.2	ScreenBeam 1100の各部名称 .....	1
1.2.1	ScreenBeam 1100 .....	2
1.3	最小要件 .....	2
1.3.1	システムに関する要件 .....	2
1.3.2	ネットワークに関する要件 .....	3
1.3.3	セットアップに関する要件 .....	3
パートII	受信機の設置 .....	4
2.1	ScreenBeam 1100をセットアップする .....	4
2.2	受信機をネットワークに接続する .....	5
2.2.1	有線接続 .....	6
2.2.2	無線接続 .....	6
2.2.3	デュアルネットワーク接続 .....	9
パートIII	クライアントデバイスの接続 .....	11
3.1	ネットワークモードの概要 .....	11
3.1.1	ローカルWi-Fi .....	11
3.1.2	Wi-Fi Miracast .....	12
3.1.3	既存のLAN経由のワイヤレスディスプレイ接続 .....	12
3.2	ローカルWi-Fiを使用して接続する .....	13
3.3	Wi-Fi Miracastを使用して接続する .....	18
3.4	既存の無線ネットワークまたはLANを使用して接続する .....	21
パートIV	表示と制御のオプション .....	26
4.1	表示モード .....	26
4.2	USB over Network Control .....	27
4.3	インタラクシオンタッチディスプレイを使用する .....	29
4.3.1	システムに関する要件 .....	29
4.3.2	セットアップに関する要件 .....	29
4.3.3	サポートされている機能 .....	29
4.3.4	セットアップ方法と使用方法 .....	29

# パートI はじめに

この度は、弊社のScreenBeam 1100ワイヤレスディスプレイ受信機（以下、「ScreenBeam 1100」）をお買い上げいただきありがとうございます。

ScreenBeam 1100ワイヤレスディスプレイ受信機は、アプリケーションやケーブルを必要とせずに、Windowsデバイス、Androidデバイス、Appleデバイスのネイティブな機能を使った画面ミラーリングを実現します。ScreenBeam 1100は、ワイヤレスディスプレイ対応デバイスにあるコンテンツ（動画、ビデオ、写真、音楽など）をHDTVにワイヤレスでストリーミングできるようにします。この受信機を利用することで、小さなスクリーンの見づらさから解放されます。この受信機は、高速な接続、強力なセキュリティとIT管理能力、滑らかなビデオ再生、1080pのフルHDのサポート、超低遅延、Windows 10向けの最適化、幅広い互換性、低消費電力をはじめとする素晴らしい特徴を備えています。また、ScreenBeam 1100は、レガシーWindows（Windows 7など）のデバイスにも対応しています。

最高のワイヤレスディスプレイ体験を得ていただけるようにするため、受信機のファームウェアの最新版への更新を強くおすすめします。[screenbeam.zendesk.com/](https://screenbeam.zendesk.com/)から最新のファームウェアをチェックしてください。

## 1.1 製品パッケージの内容

製品パッケージには以下のものが同梱されています。

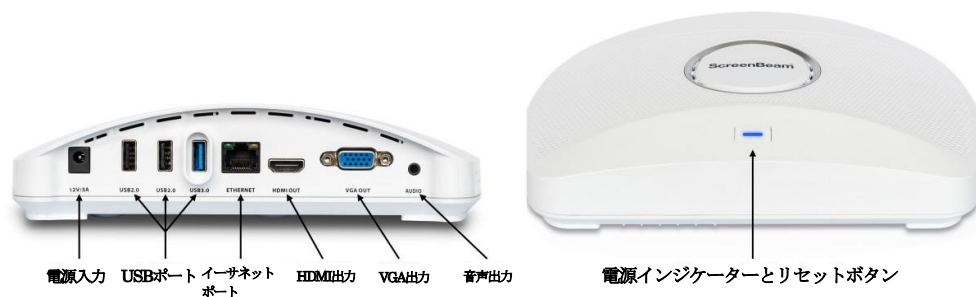
- ScreenBeam 1100受信機（1台）
- HDMI®ケーブル（1本）
- AC電源アダプター（1個）
- クイックスタートガイド（QSG）
- マグネットドッキングパーツ（1個）

## 1.2 ScreenBeam 1100の各部名称

このマニュアルは、以下のカタログ番号の製品を対象としています。

- SBWD1100

## 1.2.1 ScreenBeam 1100



- 電源供給用の電源入力 (12V/3A)
- CMS接続データのセットアップ、ファームウェアの更新、タッチディスプレイへの接続、USB over Network Control (UIBC) のためのUSBポート (USB2.0 x 2、USB3.0 x 1)
- CMS/LMIによる受信機の管理、またはインフラストラクチャーネットワーク経由でマルチメディアストリーミングを行うためのイーサネットポート (ETHERNET)
- HDTV/プロジェクターをHDMIポートに接続して映像や音声を入力するためのHDMI出力 (HDMI OUT)
- HDTV/プロジェクターをVGAポートに接続して音声を入力するためのVGA出力 (VGA OUT)
- 音声をスピーカーに出力するための音声出力 (AUDIO) (HDMI出力とVGA出力のどちらの場合も使用可能)
- 電源ステータスを表す電源インジケータ
- 受信機をデフォルトの設定にリセットするリセットボタン

## 1.3 最小要件

本機を利用デバイスやシステムの最小要件を以下に示します。

### 1.3.1 システムに関する要件

以下のいずれかのオペレーティングシステムを搭載した、2015年以降のクライアントデバイス:

- Windows 10ビルド1709 (またはそれ以降)
- macOS X 10.10 (またはそれ以降)
- iOS 9 (またはそれ以降)
- Miracastに対応したAndroid 4.4 (またはそれ以降)

### 1.3.2 ネットワークに関する要件

ワイヤレスネットワーク経由またはLAN経由でワイヤレスディスプレイを使用するための要件:

- イーサネット: 100BASE-T 10/100接続 (1Gbpsを推奨)
- 無線: 802.11ac (5GHzを強く推奨)
- マルチキャストDNS (mDNS) がサポートされていること (iOSまたはmacOSのネイティブな画面ミラーリング機能を使ってScreenBeamを自動検出するのに必要)
- 必要なポート
  - 5353 (UDP) : マルチキャストDNS (mDNS) による検出用
  - 7100 (TCPおよびUDP) : macOS、iOS、Windows 10のミラーリング用
  - 7250 (TCP) : LANデータストリームによるMiracast用
  - 47000 (TCP) : AirPlayのAirtunes用
  - 18000~18009 (TCP) : macOSとiOSのAVデータ用

**注:** Wi-Fi Miracast対応のデバイスを接続する場合は、追加のネットワーク設定は必要ありません。ただし、グループのポリシーとファイアウォールの設定をチェックして、Wi-Fi Directグループまたはホステッドネットワークを使用できることを確認してください。

### 1.3.3 セットアップに関する要件

- ScreenBeam 1100受信機
- HDMI入力またはVGA入力を備えたディスプレイ
- (オプション) タッチスクリーンとUSBタッチケーブル
- DHCP IPまたはWi-Fiルーターへのイーサネット接続

**注:** これは、LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続と管理機能で使用します。

## パートII 受信機の設置

この章では、ScreenBeam 1100をHDTVに接続する方法について説明します。作業を開始する前に、受信機のパッケージの中身がすべて揃っているか確認してください。

### 2.1 ScreenBeam 1100をセットアップする

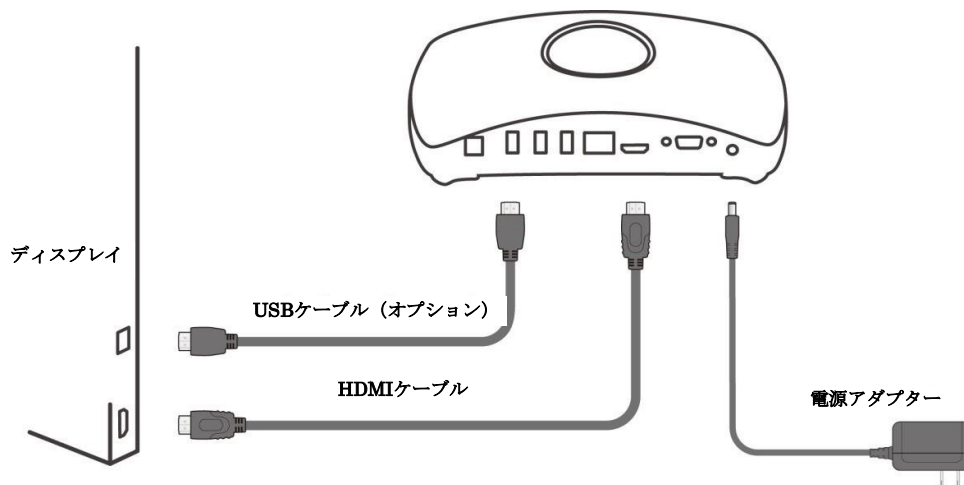
受信機のセットアップはとても簡単ですぐに行えます。ご自身で簡単にセットアップできるようになっています。受信機をHDTVに接続するには、以下の手順を実行します。

1. 受信機のパッケージから、受信機、AC電源アダプター、HDMIケーブルを取り出し、ディスプレイの隣に受信機を置きます。
2. HDMIケーブルの片方を受信機のHDMIポート (**HDMI-OUT**) に接続し、もう片方をHDTVのHDMIポートに接続します。
3. (オプション) ディスプレイにUSB HIDタッチ機能が備わっている場合、HID USBコネクタをScreenBeam受信機のUSBポートに接続します (USBケーブルは同梱されていません)。
4. (オプション) イーサネットケーブルの片方を受信機のイーサネットポートに接続し、もう片方をDHCP IP機能が備わったネットワークスイッチに接続します (イーサネットケーブルは同梱されていません)。

**注:** ネットワーク接続のセットアップの詳細については、セクション2.2を参照してください。

5. 電源コードのコネクタを受信機の電源入力 (**12V/3A**) に接続し、電源アダプターを電源コンセントに接続します。

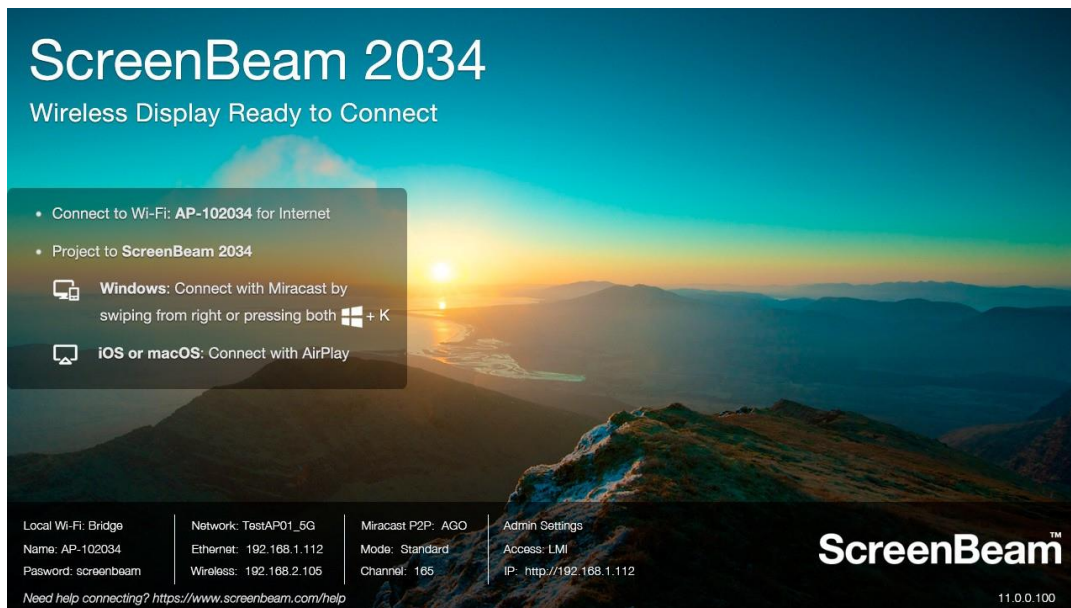
手順1、2、3が完了すると、以下の図のようにハードウェアが接続されます。



**注:** 電源アダプターは地域によって異なります。

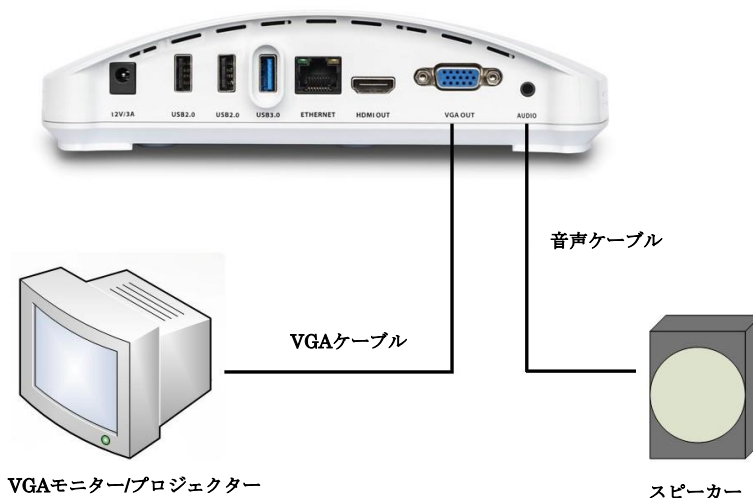
6. HDTVの電源をオンにし、正しいHDMIポート (手順2で接続したHDMIポート) からの入力を表示するようにHDTVを設定します。

7. HDTVに**Wireless Display Ready to Connect**（ワイヤレスディスプレイの接続準備ができました）と表示されていることを確認します。



HDTVに受信機が接続され、使用する準備ができました。

8. （オプション）ディスプレイプロジェクターにHDMI入力がなく、その代わりにVGA入力がある場合は、以下の図のように、VGA出力を使用してScreenBeam受信機をディスプレイプロジェクターに接続することができます。



## 2.2 受信機をネットワークに接続する

ScreenBeam 1100受信機は、有線接続と無線接続の両方に対応しています。ネットワークの要件に応じてScreenBeam 1100受信機をセットアップしてください。

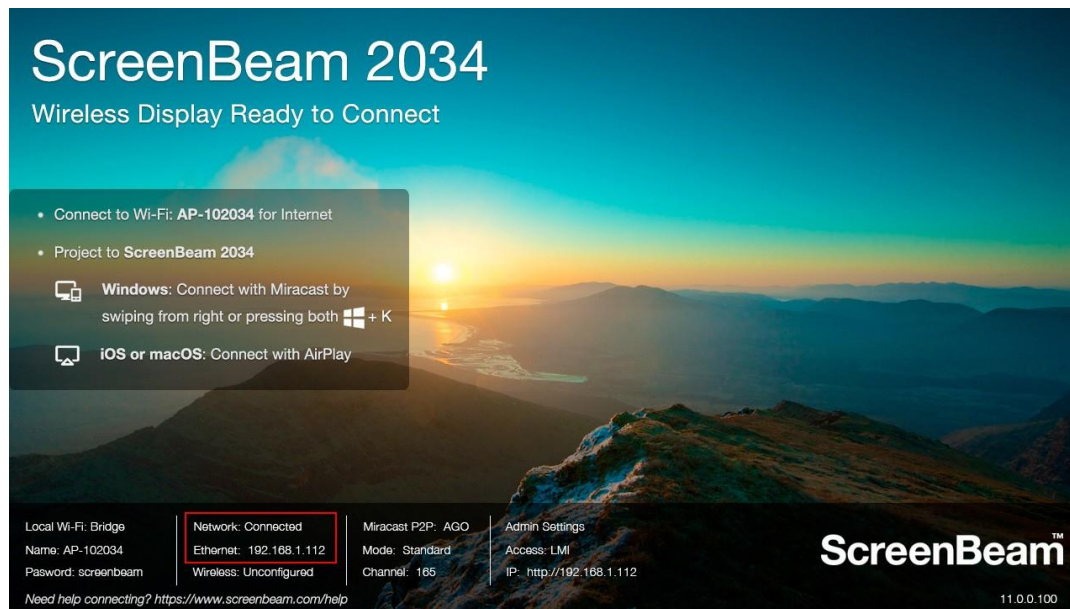
注: このセクションのセットアップ手順は必須ではなく、オプションです。

## 2.2.1 有線接続

ScreenBeam 1100にはイーサネットポートが用意されており、イーサネットネットワークに直接接続することができます。

受信機をネットワークに接続するには、以下の手順を実行します。

1. 高品質のイーサネットケーブルを使用して、ScreenBeam受信機をネットワークに接続します。
2. ネットワークでDHCPサーバーが稼働している場合、数秒すると受信機にIPアドレスが割り当てられます。



**注:** ScreenBeam受信機は、デフォルトでIPアドレスを自動的に取得するよう設定されています。受信機に静的なIPアドレスまたはDNSサーバーを設定したい場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 受信機のローカル管理インターフェイス(LMI)にログインする方法については、上級編のセクション5.2「ScreenBeamのローカル管理機能を使用する」を参照してください。
- 受信機のIPアドレスを設定する方法については、上級編のセクション5.3.6.3「受信機のIPアドレスを設定する」を参照してください。
- 受信機のDNSサーバーを設定する方法については、上級編のセクション5.3.6.4「受信機のDNSサーバーを設定する」を参照してください。

## 2.2.2 無線接続

ScreenBeam 1100受信機には、受信機をネットワークに無線接続するためのWLANアダプターが内蔵されています。接続を開始する前に、無線接続パラメーターを設定する必要があります。

受信機をネットワークに無線接続するには、以下の手順を実行します。



1. 受信機のローカル管理インターフェイス (LMI) を開き、**Remote Management** (リモート管理) タブのページでIPアドレスとDNSを設定します。

注:

- 受信機に静的なIPアドレスまたはDNSサーバーを設定したい場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 受信機のローカル管理インターフェイス(LMI)にログインする方法については、上級編のセクション5.2「**ScreenBeamのローカル管理機能を使用する**」を参照してください。
- 受信機のIPアドレスを設定する方法については、上級編のセクション5.3.6.3「**受信機のIPアドレスを設定する**」を参照してください。
- 受信機のDNSサーバーを設定する方法については、上級編のセクション5.3.6.4「**受信機のDNSサーバーを設定する**」を参照してください。

2. LMI > **Remote Management** (リモート管理) > **Wireless Connection Settings** (無線接続の設定) を開き、要件に応じてパラメーターを設定します。

**Wireless Connection Settings:**

Network Name

Security Type

Status **ScreenBeam CMS WLAN Adapter ready**

- **Network Name** (ネットワーク名) : 無線ルーター (AP) のSSID
- **Security Type** (セキュリティの種類) : 無線ルーター上で選択したセキュリティの種類を選択します。利用可能なセキュリティの種類は、**Open** (公開)、**Shared** (共有)、**WPA-PSK[TKIP]**、**WPA2-PSK[AES]**、**WPA-PSK[TKIP]+WPA2-PSK[AES]**、**PEAP/MSCHAPV2EAP-TLS**です。
- **Status** (ステータス) : 接続状態が表示されます。

**Shared** (共有)、**WPA-PSK[TKIP]**、**WPA2-PSK[AES]**、または**WPA-PSK[TKIP]+WPA2-PSK[AES]**

が選択されている場合、

- **User Name** (ユーザー名) : 使用しません。
- **Password** (パスワード) : 無線SSIDとセットで共有されているパスワードを設定します。

**PEAP/MSCHAPV2**が選択されている場合、

- **User Name** (ユーザー名) : RADIUSサーバーの認証に使用します。RADIUSアカウントのユーザー名を設定してください。

- **Password** (パスワード) : RADIUSアカウントのパスワードを設定します。

EAP-TLSが選択されている場合、以下の項目が設定対象です。

- **User Name** (ユーザー名) : ユーザープリンシパル名またはRADIUSアイデンティティを設定します (必要な場合)。

注: ユーザー名には、a~z、A~Z、0~9、@、ピリオド (.)、アンダースコア (\_) を使用できます。

- **Password** (パスワード) : 秘密鍵のパスワードを設定します。
- **System Date & Time** (システムの日付と時刻) : 受信機の日付と時刻を設定するのに使用します。証明書の有効期間に従って日付と時刻を設定してください。
- **CA Certificate** (認証機関の証明書) : ルート証明書を設定します。 **Browse** (ブラウズ) ボタンをクリックして証明書を追加してください。
- **User Certificate** (ユーザー証明書) : ユーザー証明書を設定します。 **Browse** (ブラウズ) ボタンをクリックして証明書を追加してください。
- **Private Key** (秘密鍵) : ユーザーの秘密鍵を設定します。 **Browse** (ブラウズ) ボタンをクリックして証明書を追加してください。
- **Validity Period** (有効期間) : 証明書の有効期間が表示されます。

注:

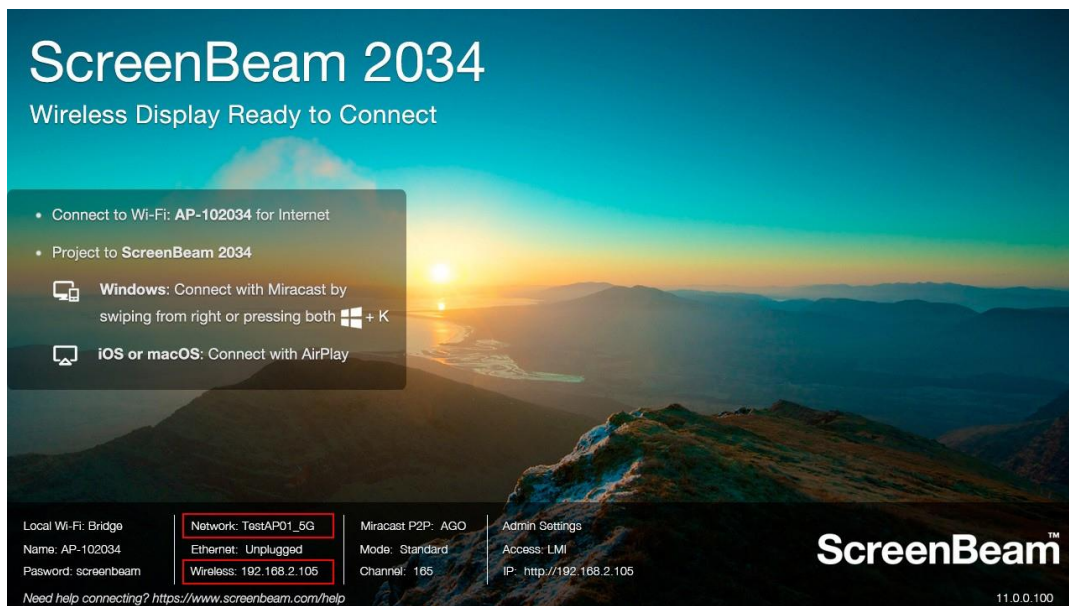
- 現在、".pem"形式の証明書のみサポートされています。また、「DER encoded binary X.509」方式で証明書を作成する必要があります。
- 証明書ファイルの名前は64バイト以下、ファイルサイズは100KB未満でなければなりません。
- 認証には3つの証明書がすべて必要です。
- 証明書の種類に応じて正しい証明書ファイルを選択してください。

3. **Connect** (接続) ボタンをクリックして受信機をネットワークに接続します。数秒すると、アダプターが無線ルーター (AP) に接続されます。

注:

- 受信機の状態が**Wireless Display Ready to Connect** (ワイヤレスディスプレイの接続準備ができました) のときに、WLANアダプターをネットワークに接続してください。
- AGOモードでは、無線接続パラメーターを設定できますが、受信機の状態が**Wireless Display Ready to Connect** (ワイヤレスディスプレイの接続準備ができました) になった後に、受信機がAPに接続されます。

- ネットワークの環境によっては、WLANアダプターがネットワークに接続されるまで時間がかかる場合があります。

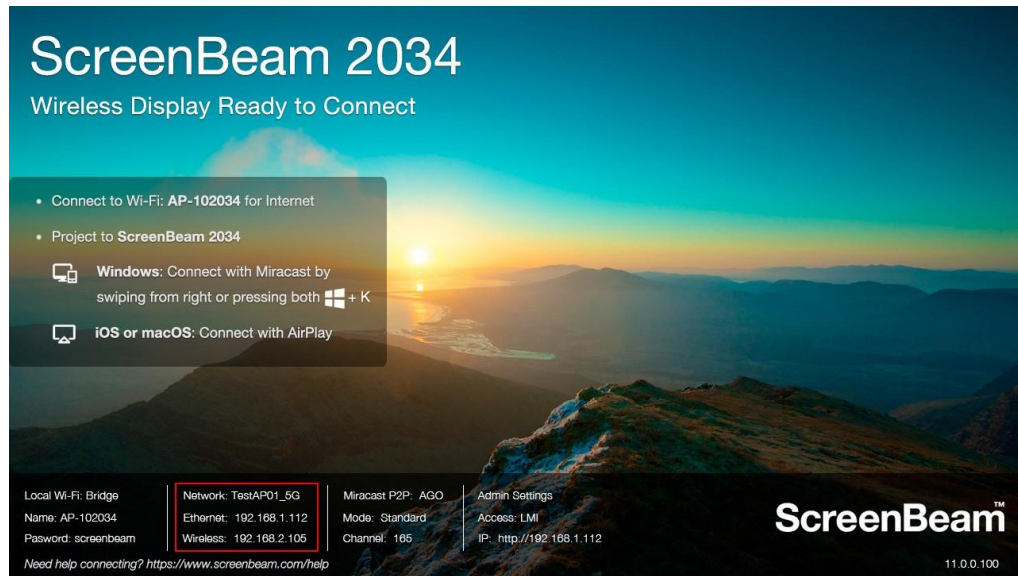


### 2.2.3 デュアルネットワーク接続

ScreenBeam 1100は、2つのネットワークに同時に接続できます。このデュアルネットワーク機能により、スタッフ（内部ネットワーク）または訪問者（ゲストネットワーク）のどちらもワイヤレスディスプレイを利用できます。

1. あらかじめネットワークの構成を決めておきます。例えば、ひとつを内部用にし、ひとつをゲスト用にします。
2. イーサネットでScreenBeam 1100を内部ネットワークに接続し、IPアドレスが割り当てられたことを確認します。

3. 無線接続でScreenBeam 1100をゲストネットワークに接続し、IPアドレスが割り当てられたことを確認します。



これで、内部ネットワークに接続されたユーザーと、ゲストネットワークに接続されたユーザーの両方が、ScreenBeamに接続してワイヤレスディスプレイを利用できるようになります。

## パートIII クライアントデバイスの接続

このセクションでは、一般的なオペレーティングシステムのネイティブな画面ミラーリング機能を使ってScreenBeamに接続する方法について説明します。

一般的なオペレーティングシステムの詳細については、[www.screenbeam.com/setup](http://www.screenbeam.com/setup)を参照してください。

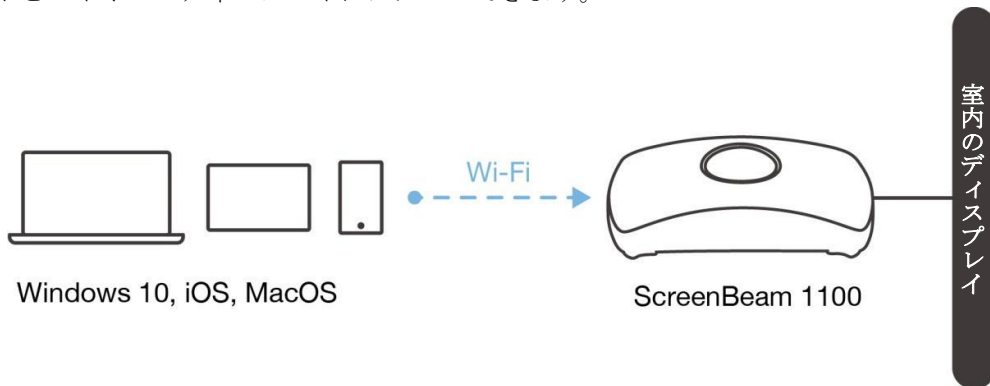
**注:** このWebページには、クライアントデバイスのOSに応じた説明が表示されます。Webページの下部にあるリンクをクリックして、該当するOSの説明を選択してください。

### 3.1 ネットワークモードの概要

ScreenBeam 1100では、アプリケーションを必要とせずに、Windows 10、macOS、iOS、Androidのデバイスをワイヤレスディスプレイに接続してプレゼンテーションが行えます。ScreenBeam 1100は、ローカルWi-Fi、Wi-Fi Miracast、および既存のインフラストラクチャーネットワーク経由のワイヤレスディスプレイ接続をサポートしています。複数のモードを同時に使用できるため、内部のスタッフとゲストユーザーが同時に接続してコンテンツを表示するさまざまなシナリオに対応できます。

#### 3.1.1 ローカルWi-Fi

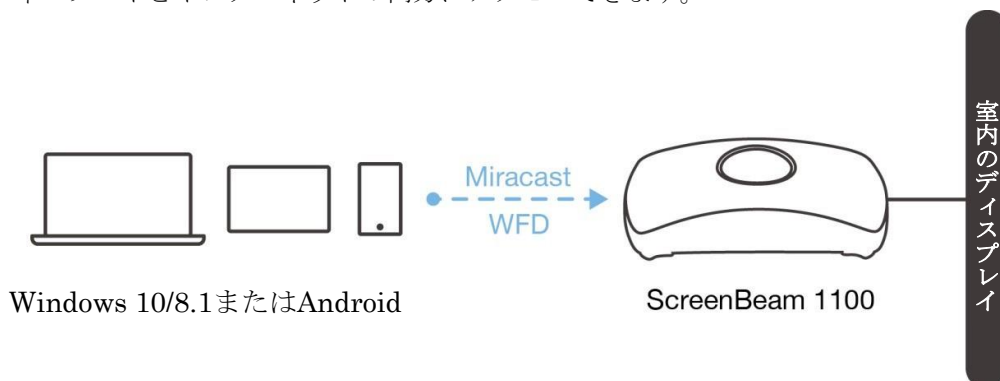
ScreenBeamのWi-Fiモードは、クライアントデバイスを接続してコンテンツを表示するための最も簡単な方法です。このモードでは、クライアントデバイスのWi-FiをScreenBeamのWi-Fiに接続し、ミラーリングを行う受信機を選択します。このモードは、ゲストのクライアントデバイスをワイヤレスディスプレイとインターネットに接続するのに最適です。ScreenBeam受信機が有線または無線で既存のネットワークに接続されており、ブリッジモードが有効になっていれば、インターネットを利用できます。ブリッジモードが無効な場合、携帯電話サービスを利用できるモバイルデバイスからインターネットとワイヤレスディスプレイにアクセスできます。



**注:** ScreenBeamのWi-Fiについては、ScreenBeam CMSからセキュリティの設定とネットワークの管理を行うことができ、無線送信電力、通信チャネル、暗号化方式を設定できます。

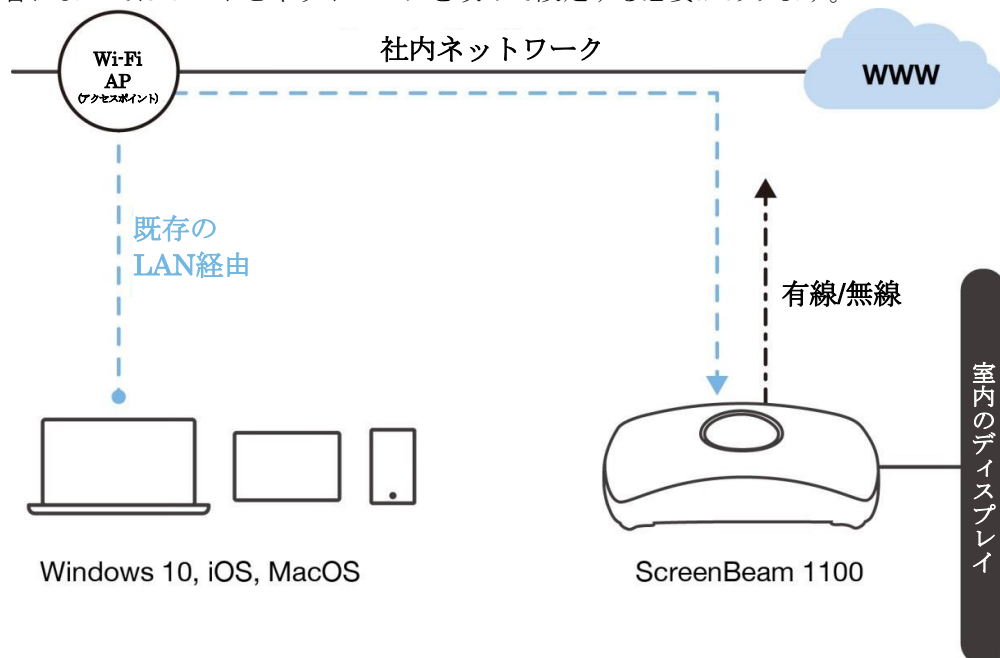
### 3.1.2 Wi-Fi Miracast

Wi-Fi Miracastモードでは、（インフラストラクチャーの無線ネットワークに接続されている場合も）Wi-Fi Miracast対応デバイスをScreenBeamに直接接続することが可能です。Miracastは、通常、2015年以降のWindows 10/8.1およびAndroid 4.4（またはそれ以降）に実装されています。クライアントデバイスが既にWi-Fiに接続されていれば、ワイヤレスディスプレイとインターネットの両方にアクセスできます。



### 3.1.3 既存のLAN経由のワイヤレスディスプレイ接続

ScreenBeam 1100を既存の有線または無線のネットワークに接続して、いずれかのネットワークを使ってクライアントデバイスの画面をワイヤレスディスプレイに表示させることができます。このモードは、通常、クライアントデバイスからネットワークリソースにアクセスする必要がある場合に使用します。このモードをシームレスに機能させるには、場合によってはポートとネットワークを改めて設定する必要があります。



ScreenBeam 1100を2つの異なるネットワークに同時に接続することができます。このデュアルネットワーク機能が、社内のスタッフ（内部ネットワーク）と訪問者（ゲストネットワーク）のいずれもワイヤレスディスプレイを利用できる柔軟性を実現しています。詳細については、デプロイメントガイドを参照してください。

## 3.2 ローカルWi-Fiを使用して接続する

このセクションでは、ScreenBeam 1100のローカルAPを使用してクライアントデバイスをScreenBeam 1100に接続する方法について説明します。

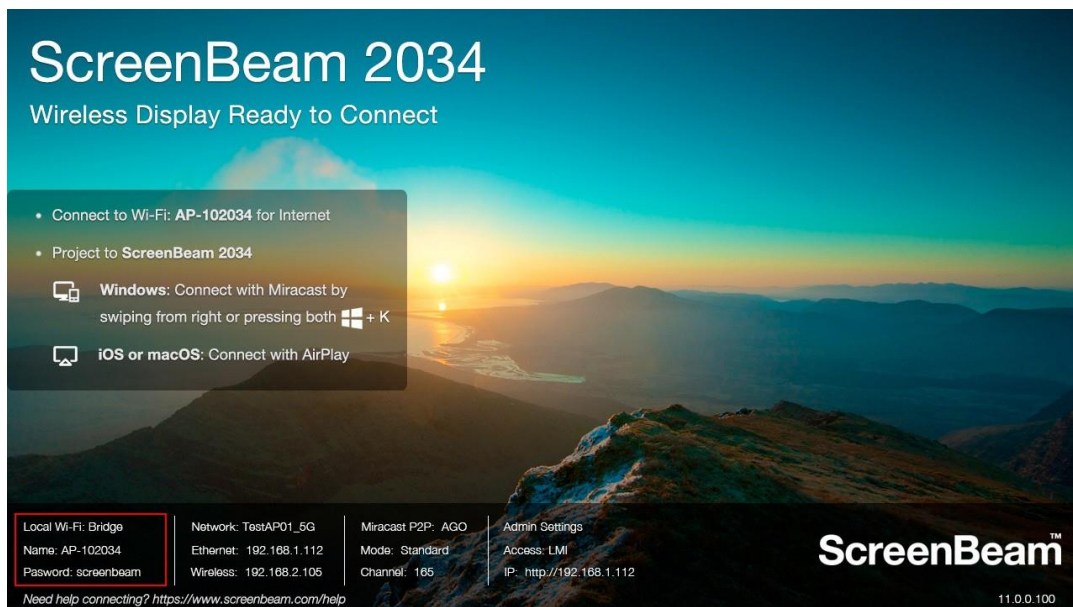
1. Windows 10またはmacOS/iOSのネイティブな画面ミラーリング機能を使用する場合、**Wireless display over LAN**（LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続）機能が有効になっていることを確認してください。詳細については、上級編のセクション5.3.2.1を参照してください。**注:** CMSで受信機を設定することもできます。

### Wireless display over LAN

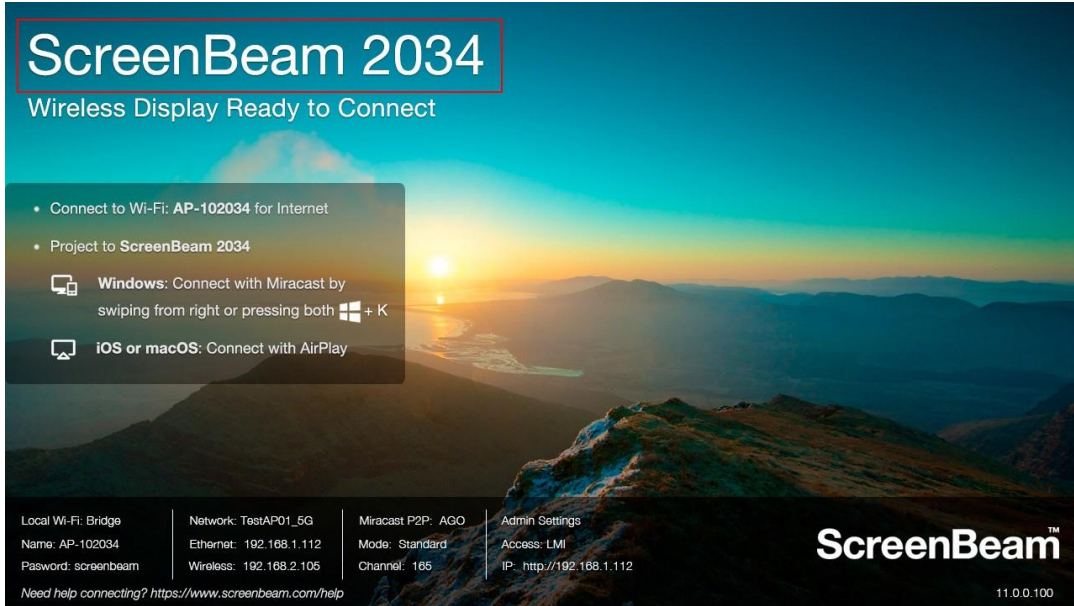
Wireless display over LAN allows client devices to project over the local network connection. ScreenBeam receiver must be connected to the network via Ethernet (recommended) or via Wireless.

Windows 10	<input checked="" type="radio"/> Enable	<input type="radio"/> Disable	Requires Windows 10 build 1703 (or later)
macOS or Windows 7	<input type="radio"/> Enable	<input checked="" type="radio"/> Disable	Requires ScreenBeam macOS or Windows 7 software.
macOS/iOS native screen mirroring	<input checked="" type="radio"/> Enable	<input type="radio"/> Disable	

2. ディスプレイ画面の表示に従って、クライアントデバイスのWi-Fiをワイヤレスネットワーク（AP）に接続します。そして、無線ネットワークのパスワードを入力します。デフォルトのパスワードは**screenbeam** です（大文字と小文字が区別されます）。**注:** Miracastが実装されたWindows 10/8.1デバイスまたはAndroidデバイスの場合は、セクション3.3 「Wi-Fi Miracastを使用して接続する」に進んでください。



3. ディスプレイ画面に表示されたScreenBeam受信機の名前を選択します。



- Windows 10の場合

右から左にスワイプするか、Windowsキー  とKを同時に押して、アクションセンターから[接続する]を選択します。

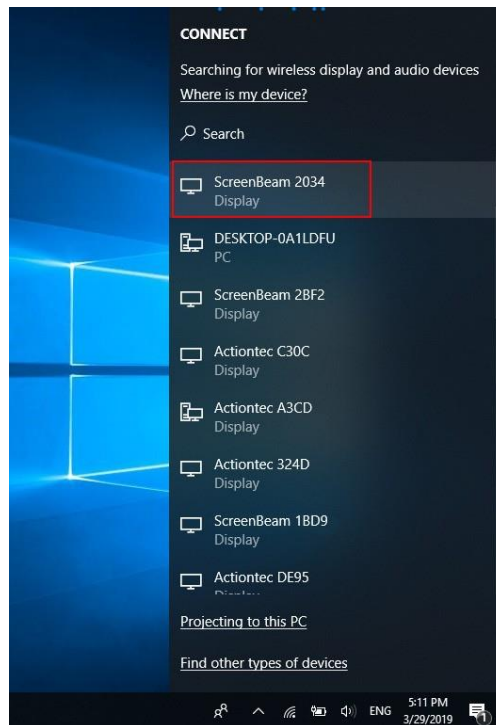



図: Windows 10デバイス上で受信機を選択する



- iOSまたはmacOSの場合  
メニューバーまたはコントロールセンターからAirPlay  に接続します。

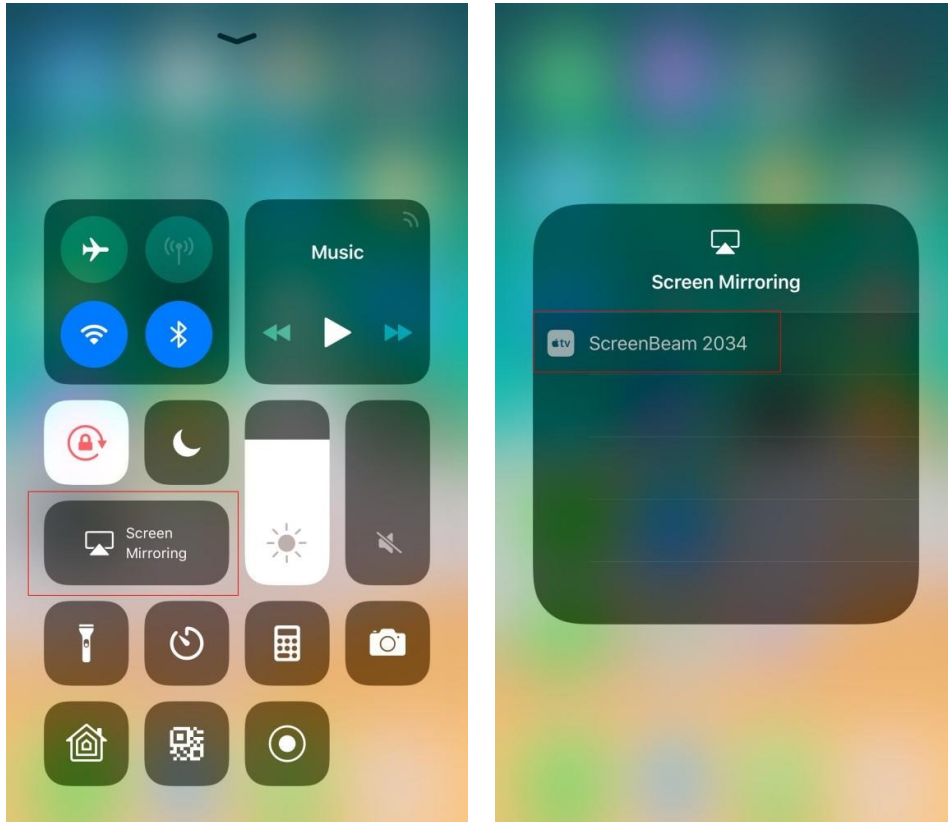


図: iOSデバイス上で受信機を選択する

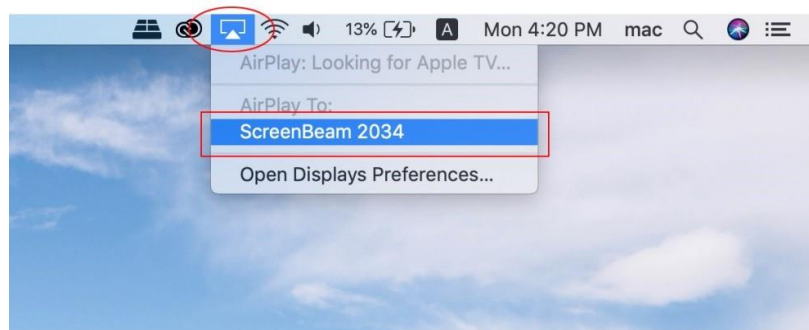
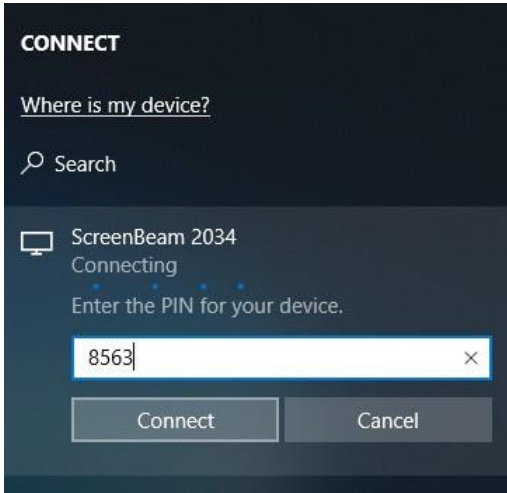
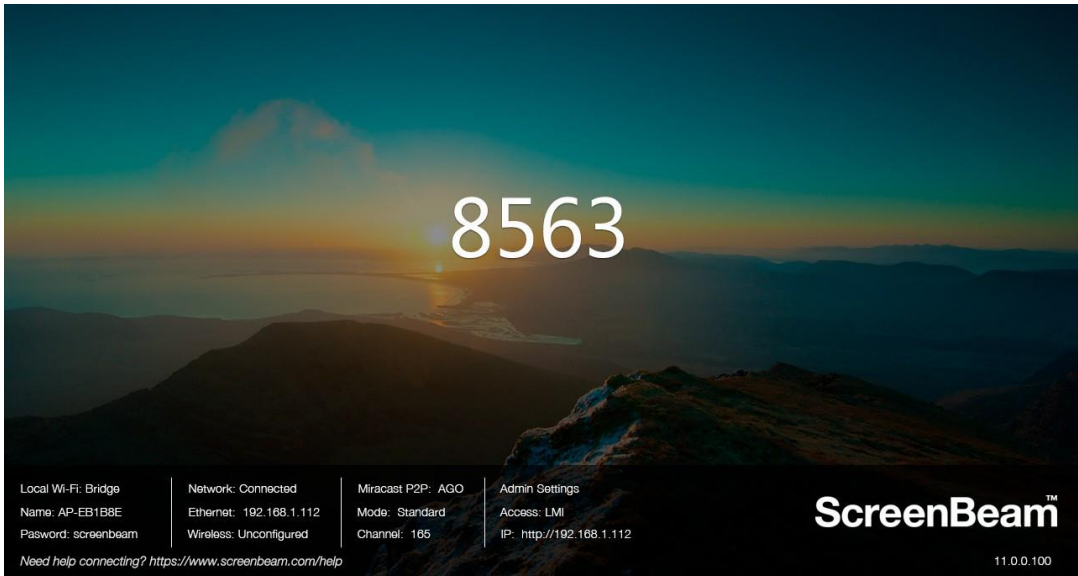
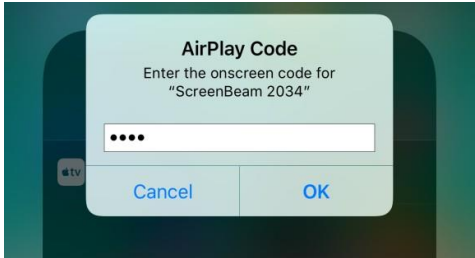


図: macOSデバイス上で受信機を選択する

4. 画面の指示に従って、PINを入力します。PINコードが表示されない場合は、隠しPINの1234（デフォルト値）を入力してください。  
**注:** 接続したディスプレイにPINが表示されない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。



Windows 10

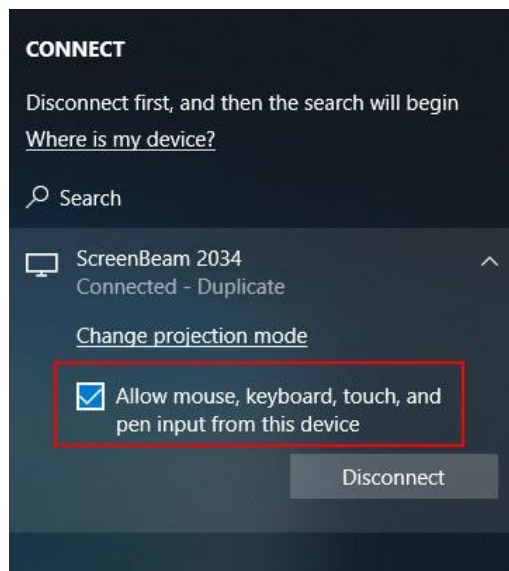


iOS



macOS

5. 画面の指示に従って、複製画面モードまたは拡張画面モードを選択します。
6. ディスプレイにタッチ機能が備わっている場合、[このデバイスからのマウス、キーボード、タッチ、ペン入力を許可する]を選択すると、タッチ機能とインキング機能を使用できます（Windows 10デバイスの場合）（詳細については、セクション4.2「**USB over Network Control**」を参照してください）。

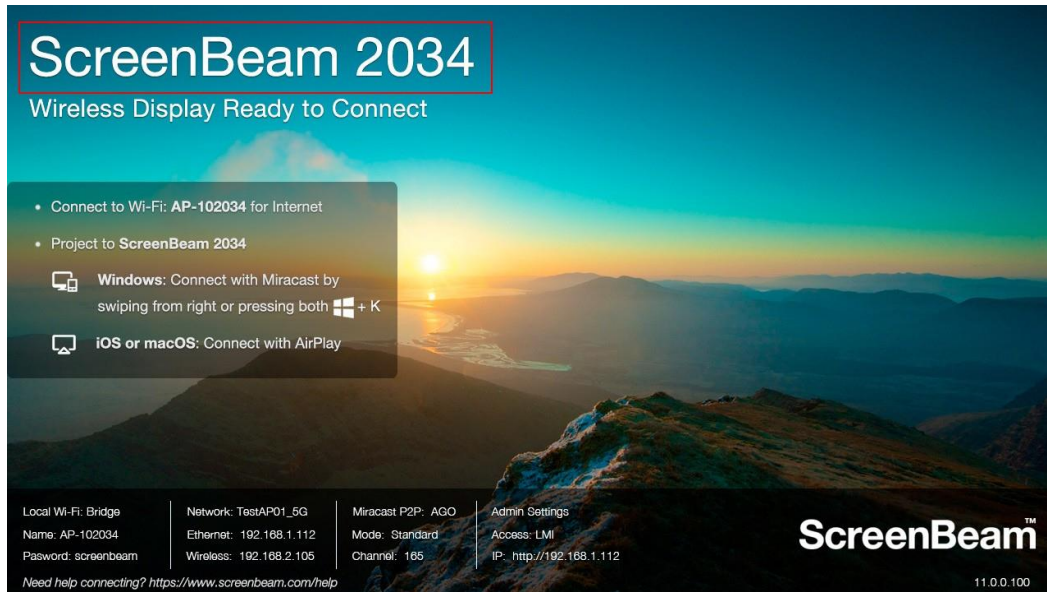


**注:** 接続を解除するには、手順3を実行して画面ミラーリングメニューに戻り、ミラーリングのオフを選択します。

### 3.3 Wi-Fi Miracastを使用して接続する

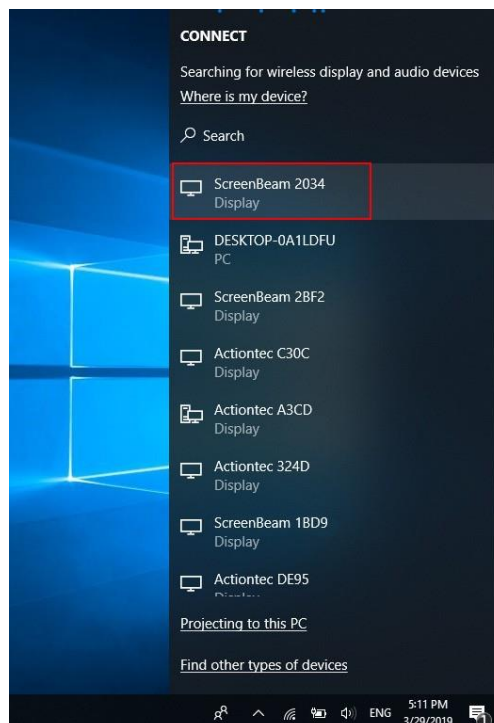
このセクションでは、Wi-Fi Miracastを使用してクライアントデバイスをScreenBeam 1100に接続する方法について説明します。

1. ディスプレイ画面に表示されたScreenBeam受信機の名前を選択します。



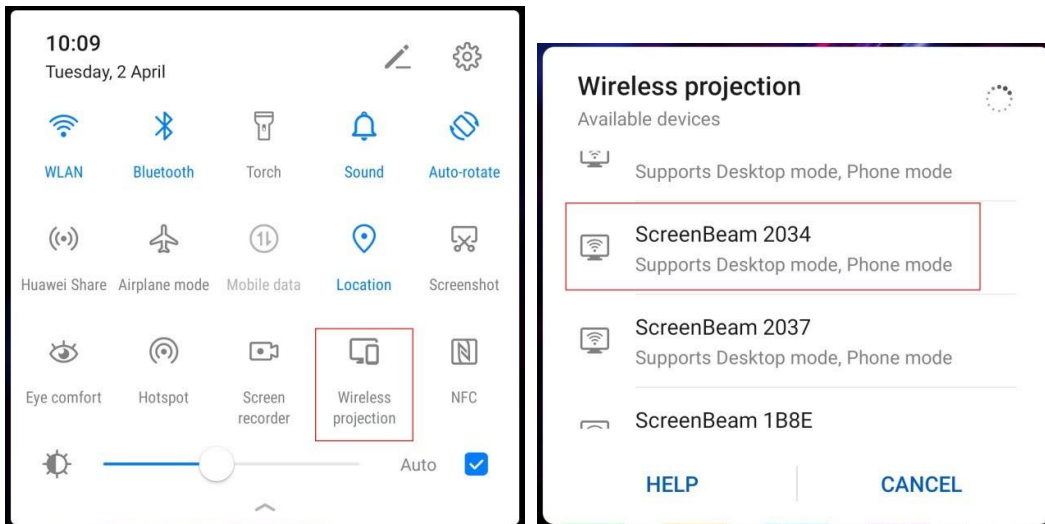
- Windows 10の場合

右から左にスワイプするか、Windowsキー  とKを同時に押して、アクションセンターから[接続する]を選択します。



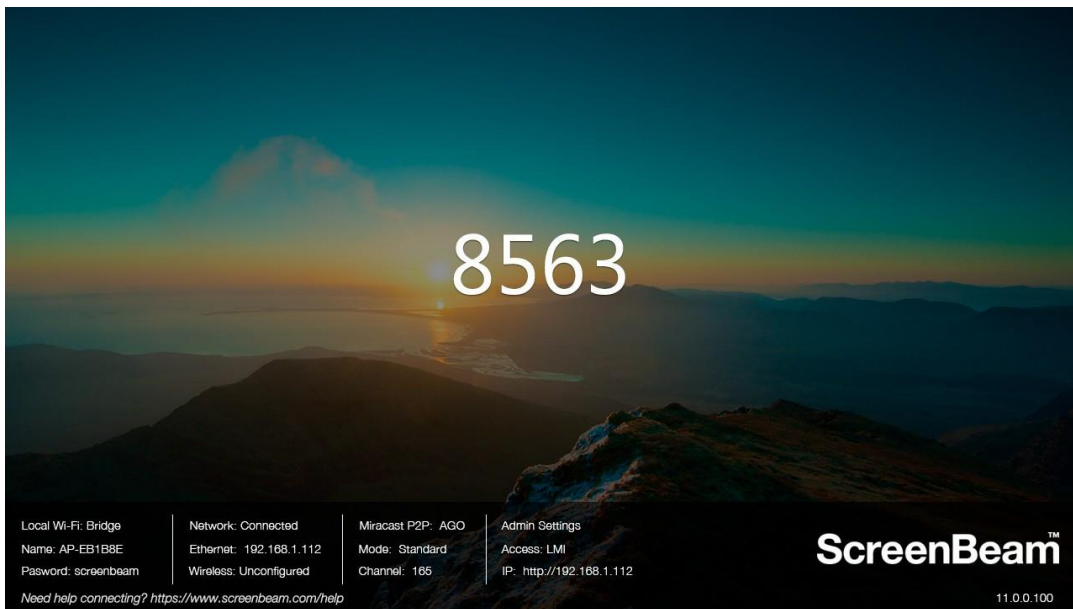
- **Androidの場合**

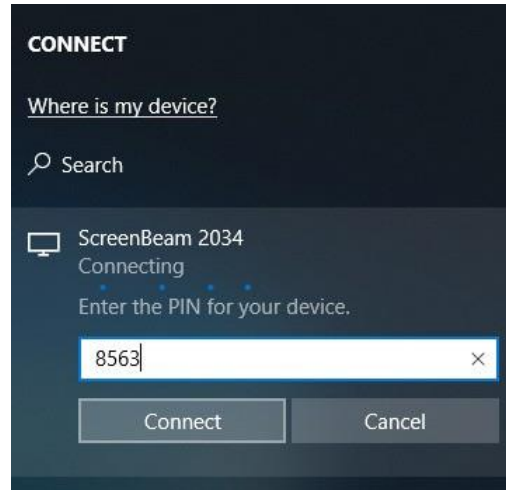
クイックアクセスメニューで画面ミラーリングオプションを選択し、接続に関する画面の指示に従います。



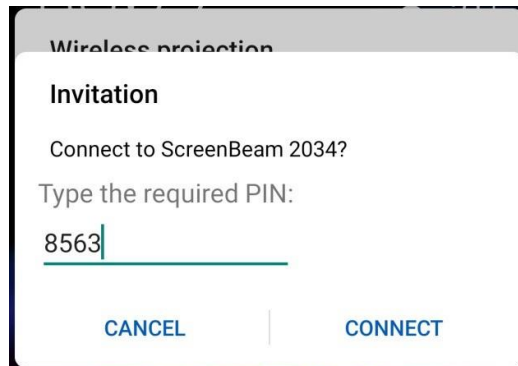
2. 画面の指示に従って、PINを入力します。PINコードが表示されない場合は、隠しPINの1234（デフォルト値）を入力してください。

**注:** 接続したディスプレイにPINが表示されない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。





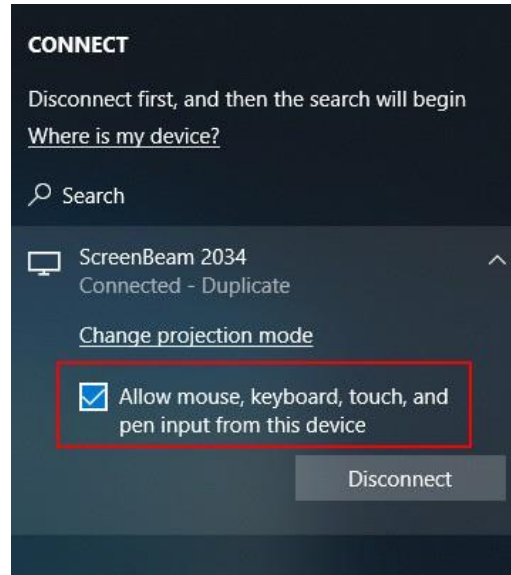
Windows 10



Android

3. 画面の指示に従って、複製画面モードまたは拡張画面モードを選択します。
4. ディスプレイにタッチ機能が備わっている場合、[このデバイスからのマウス、キーボード、タッチ、ペン入力を許可する]を選択すると、タッチ機能とインキング機能を使用できます（Windows 10デバイスの場合）

(詳細については、セクション4.2「**USB over Network Control**」を参照してください)。



注:

- 接続を解除するには、手順1を実行して画面ミラーリングメニューに戻り、ミラーリングのオフを選択します。
- Androidデバイスによっては、PINがサポートされておらず接続できない場合があります。ScreenBeamを設定してPINの入力を強制させないようにする方法については、上級編のセクション5.3.4.1「**PINペアリング方法を設定する**」を参照してください。

### 3.4 既存の無線ネットワークまたはLANを使用して接続する

このセクションでは、既存の無線ネットワークまたはLANを使用してクライアントデバイスをScreenBeam 1100に接続する方法について説明します。

1. Windows 10またはmacOS/iOSのネイティブな画面ミラーリング機能を使用する場合、**Wireless display over LAN** (LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続) 機能が有効になっていることを確認してください。詳細については、上級編のセクション5.3.2.1を参照してください。

注: CMSで受信機を設定することもできます。

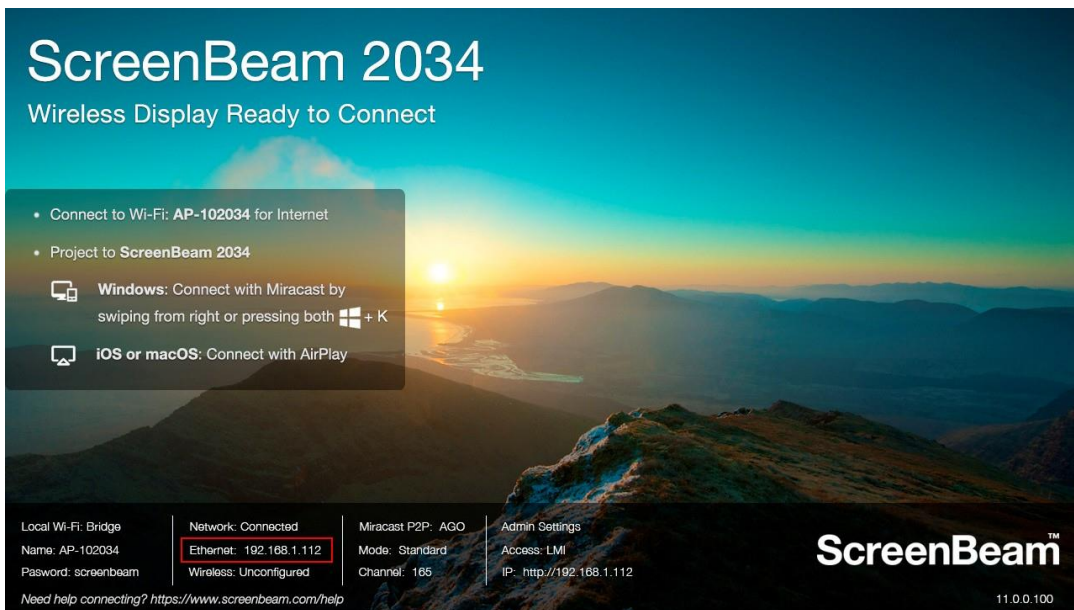
**Wireless display over LAN**  
Wireless display over LAN allows client devices to project over the local network connection. ScreenBeam receiver must be connected to the network via Ethernet (recommended) or via Wireless.



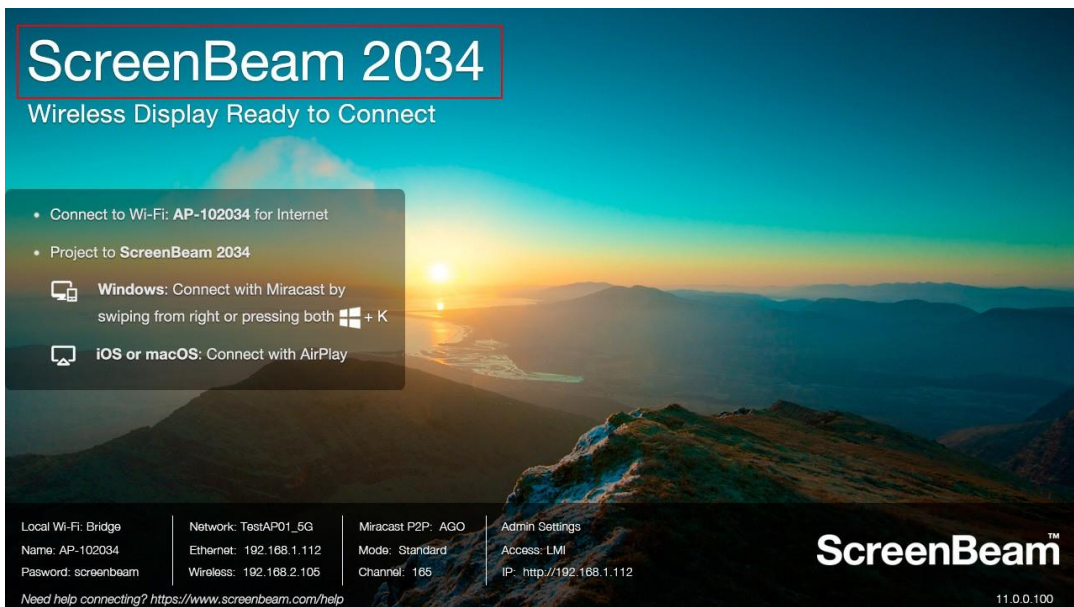
2. クライアントデバイスがWi-Fi経由で接続可能な既存のネットワークに、ScreenBeam受信機を接続します。詳細については、セクション2.2「**受信機をネッ**

「ネットワークに接続する」を参照してください。

- 受信機がIPアドレスを取得したか確認します（**Ready to Connect**（接続準備完了）画面に表示されます）。




- ScreenBeam受信機が接続されているのと同じネットワークに、クライアントデバイスを接続します。
- ディスプレイ画面に表示されたScreenBeam受信機の名前を選択します。





- Windows 10の場合

右から左にスワイプするか、Windowsキー  とKを同時に押して、アクションセンターから[接続する]を選択します。

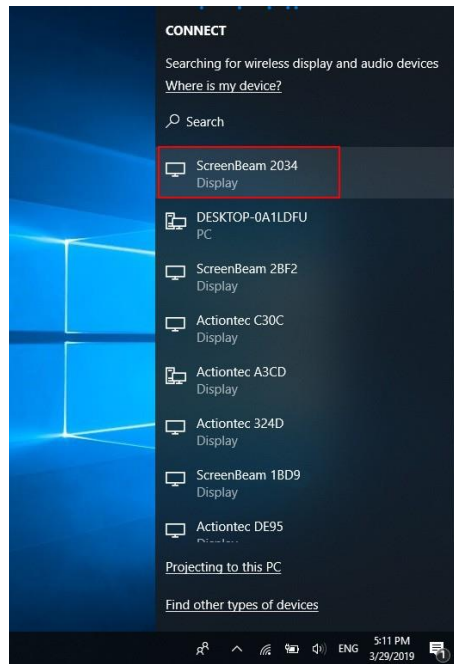



図: Windows 10デバイス上で受信機を選択する

- iOSまたはmacOSの場合

メニューバーまたはコントロールセンターからAirPlay  に接続します。

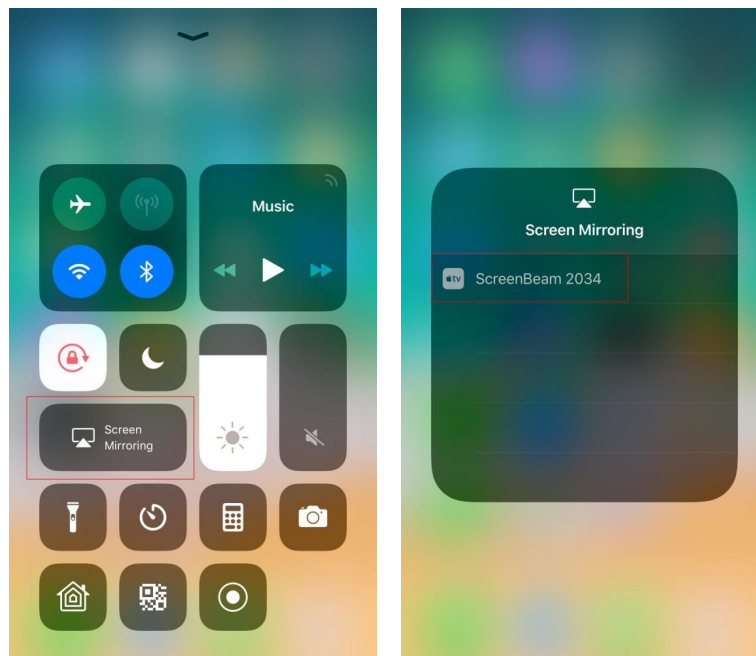
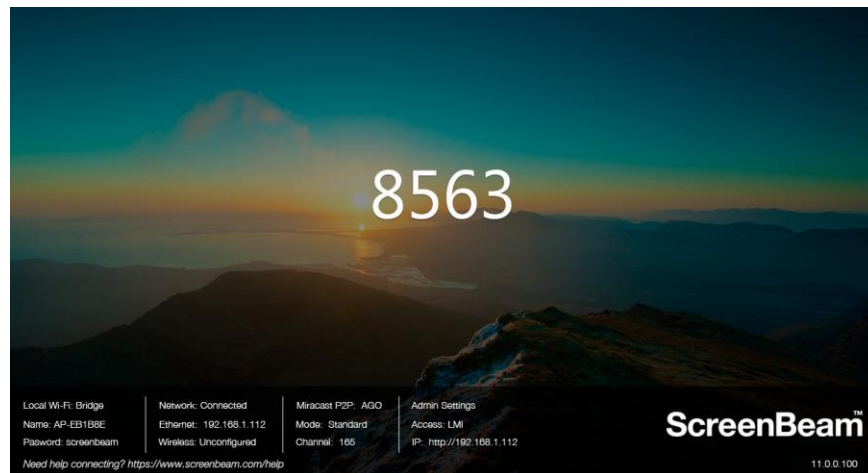


図: iOSデバイス上で受信機を選択する

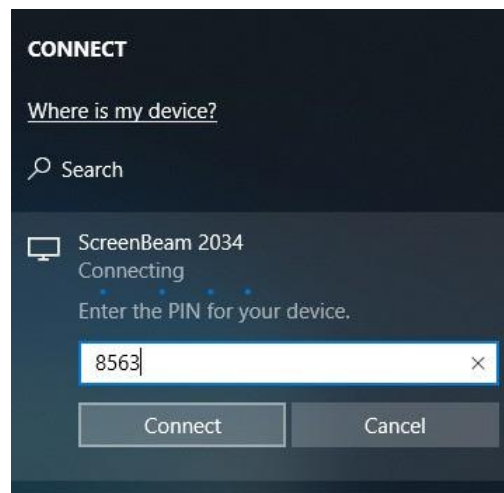


図: macOSデバイス上で受信機を選択する

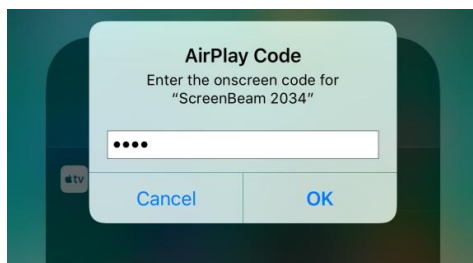
6. 画面の指示に従って、PINを入力します。PINコードが表示されない場合は、隠しPINの1234（デフォルト値）を入力してください。



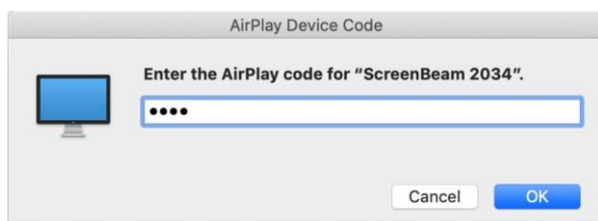
注: 接続したディスプレイにPINが表示されない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。



Windows 10

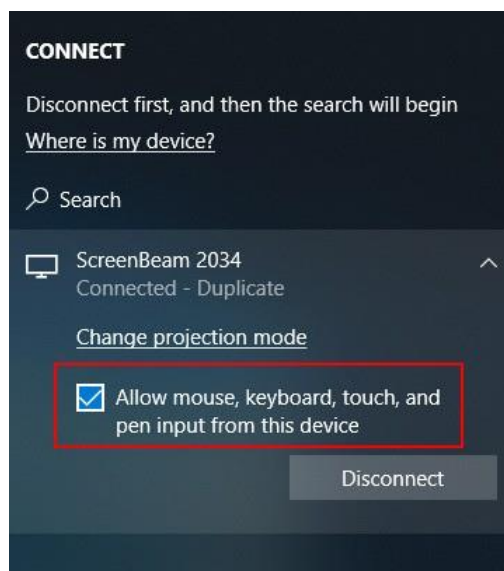


iOS



macOS

7. 画面の指示に従って、複製画面モードまたは拡張画面モードを選択します。
8. ディスプレイにタッチ機能が備わっている場合、[このデバイスからのマウス、キーボード、タッチ、ペン入力を許可する]を選択すると、タッチ機能とインキング機能



を使用できます（Windows 10デバイスの場合）（詳細については、セクション4.2「**USB over Network Control**」を参照してください）。


**注:** 接続を解除するには、手順3を実行して画面ミラーリングメニューに戻り、ミラーリングのオフを選択します。

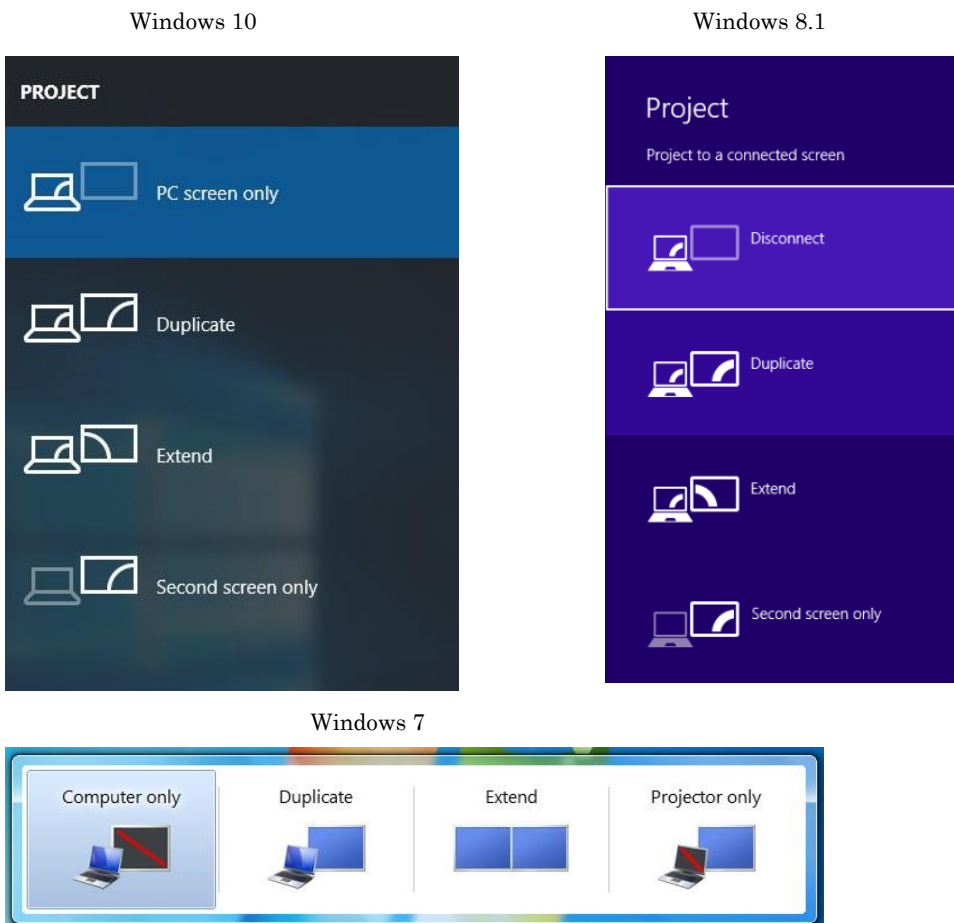
# パートIV 表示と制御のオプション

この章では、受信機がサポートしている表示モードと制御オプションについて説明します。

## 4.1 表示モード

この受信機では、互換性のあるワイヤレスディスプレイアプリケーションを使って接続した場合には、3つの表示モードがサポートされます。

Windowsの場合、**Windows**のロゴと**P**キー (  + **P** ) を同時に押して表示オプションを開いて、目的の表示モードを選択します。



macOSの場合、AirPlayのアイコン  をクリックし、**Mirror Built-in Display** (内蔵ディスプレイをミラーリング)、**Mirror Apple TV** (Apple TVをミラーリング)、**Use As Separate Display** (個別のディスプレイとして使用) から目的のプロジェクションモードを選択します。



- **Duplicate (複製)** (macOSの**Mirror Built-in Display** (内蔵ディスプレイをミラーリング) または**Mirror Apple TV** (Apple TVをミラーリング) )

**Duplicate** (複製) モードは、デバイスの画面とHDTVの画面に同じコンテンツを同時に表示するのに使用します。

**注:** HDTVの画面のコンテンツは、デバイスの画面のコンテンツよりわずかに遅れて表示されます。これは、現状のワイヤレスディスプレイ技術がそのようなになっているためです。

- **Extend (拡張)** (macOSの**Use As Separate Display** (個別のディスプレイとして使用) )

**Extend** (拡張) モードを選択すると、入力元のデバイスとHDTVの画面が1つの拡張画面になります。**Extend** (拡張) モードでは、デバイス画面の右側にウィンドウをドラッグすると、そのウィンドウがHDTVに表示され、HDTVの左側にウィンドウをドラッグすると、そのウィンドウがデバイス画面に戻ります。このモードでは、選択したコンテンツをHDTVに表示させつつ、他のウィンドウをデバイス画面に残すことができます。最初にこのモードを選択すると、HDTVにはWindowsデスクトップのみ表示されます。

- **Second Screen Only (セカンド画面のみ)**

**Second Screen Only** (セカンド画面のみ) モードを選択すると、デバイスのコンテンツがHDTVにのみ表示されます。コンテンツはすべて接続した画面に表示され、デバイスの画面には何も表示されません。

## 4.2 USB over Network Control

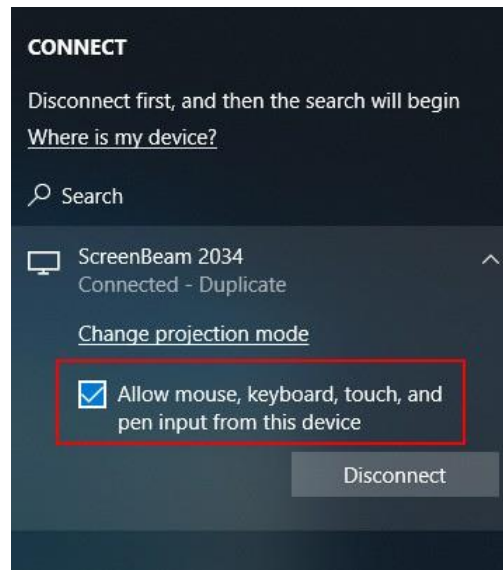
ScreenBeam 1100受信機では、USB over Network Controlとも呼ばれるUser Input Back Channel (UIBC) がサポートされています。この機能では、入力元のデバイスからUSB HID周辺デバイスを使って、ScreenBeamへの接続を介してクライアントデバイスを制御することができます。

USB over Network Controlは、**Windows 10**のデバイス\*でのみ使用できます。Windows 10でUIBCで使用するには、CPUが以下の最低要件を満たしている必要があります。

- 第4世代Intel Core i3プロセッサ (Haswellまたはそれ以上)
- AMD A4-5000プロセッサ (Kabiniまたはそれ以上)

USBキーボード、マウス、トラックパッドを接続するには、以下の手順を実行します。

1. USB HID周辺デバイスを受信機のUSBポートに接続し、デバイスが検出されるまで待ちます。デバイスが検出されるまで10～15秒かかります。
2. Windows 10デバイスを受信機に接続します。このとき、必ず[このデバイスからのマウス、キーボード、タッチ、ペン入力を許可する]チェックボックスをオンにしてください。



**注:** Miracast接続時に[このデバイスからのマウス、キーボード、タッチ、ペン入力を許可する]チェックボックスがオンになっている場合でも、Windows 10デバイスが前述したCPUの最低要件を満たしていない場合、UIBC機能は使用できません。

3. USBキーボード、マウス、トラックパッドを使用して、入力元のデバイスを制御します。

## 4.3 インタラクティブタッチディスプレイを使用する

ScreenBeam 1100では、タッチスクリーンディスプレイを使用してコラボレーションするための、Windows 10 Miracastのワイヤレスインキング機能とワイヤレスタッチ機能がサポートされています。ユーザーは、好きなWindows 10アプリケーションをスクリーンに映し出し、タッチスクリーン上でメモを入力することができます。入力したメモは、クライアントデバイスに直接表示されます。

### 4.3.1 システムに関する要件

- OS: Windows 10ビルド1709（またはそれ以降）
- CPU: 第5世代Intel Core iシリーズ5xxx、または同等のAMDプロセッサ（またはそれ以上）
- RAM: 4GB以上

### 4.3.2 セットアップに関する要件

- インタラクティブタッチディスプレイまたはプロジェクター
- タイプA・タイプB/AのUSBケーブル（実際に必要なケーブルはタッチスクリーンの種類により異なります）

### 4.3.3 サポートされている機能

- USB HIDディスプレイ、プロジェクター、ホワイトボード
- 最大20ポイントのタッチ
- 最大4本のパッシブペン
- 最大2本のアクティブペン

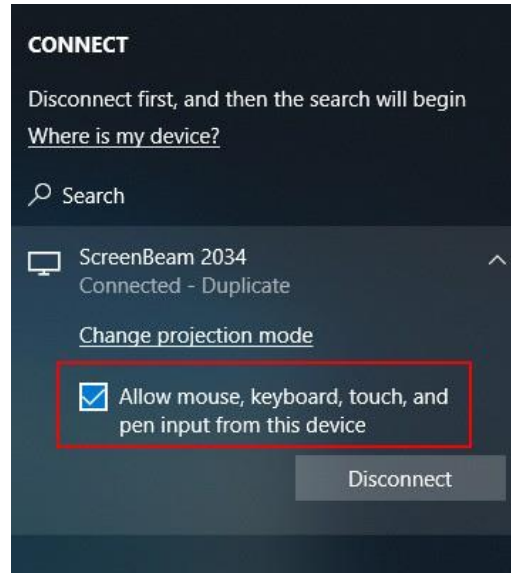
サポートされている機能を使用するには、使用する機能に対応したタッチスクリーンやアプリケーションが必要です。InGlass™技術対応のディスプレイが最適です。オンラインの互換性リスト (<https://support.screenbeam.com/touch/compatibility>) を参照してください。

### 4.3.4 セットアップ方法と使用方法

以下の手順に従って、インタラクティブタッチ機能をセットアップして使用してください。

1. タッチディスプレイと、タッチディスプレイに付属しているUSBタッチケーブルを用意します。
2. USBタイプAの側を、ScreenBeam受信機のUSBポートに接続します。

3. USBタイプB/Aの側を、ディスプレイまたはプロジェクターのUSBタッチ入力に接続します。**注:** ディスプレイに複数のタッチ出力が用意されている場合、USBタイプB/Aの側をHDMI入力と同じタッチ出力に接続してください。
4. Windows 10デバイスをScreenBeam 1100に接続します（「パートIII クライアントデバイスの接続」の説明を参照してください）。
5. [このデバイスからのマウス、キーボード、タッチ、ペン入力を許可する]チェックボックスがオンになっていることを確認します。



6. 画面をタッチしてディスプレイの使用を開始します。アプリケーションを起動し、指またはペンで線を描いてください。